

# 石川町第6次総合計画分野別会議 意見集約

## 会議開催経過

7月14日	10:00 ~ 12:00	教育分野	(第1回)
	13:00 ~ 15:00	保健福祉分野	(第1回)
7月22日	10:00 ~ 12:00	産業分野	(第1回)
	13:00 ~ 15:00	生活環境分野	(第1回)
8月11日	10:00 ~ 12:00	教育分野	(第2回)
	13:00 ~ 15:00	保健福祉分野	(第2回)
8月12日	10:00 ~ 12:00	産業分野	(第2回)
	13:00 ~ 15:00	生活環境分野	(第2回)

平成30年8月  
石川町

# 産業へのご意見

## 施策の概要：①農林業の振興

- メンバーが高齢化。任期5年が負担となり維持することが大変。(中山間地域等直接支払制度)
- 子供がいない。高齢化で若い担い手がいない。生活するのが大変。
- 大きく分けると大規模と小規模農家に分けられる。小規模農家は農地を荒らしておけない。対面を気にして管理している人が多い。耕作意欲を高めるためには、売れるシステムづくりが必要では。
- 農地を相続しても何をしていいかわからない。山林も自己所有地がわからない方が多い。土地の活用には指導する方が必要ではないか。
- アグリプラン21では小規模農家への対策が十分でない。
- 農地利用についてあまり前向きな意見が出てこない状況。荒らさないように取り組んでいるが、数年後がどうなるか。
- 桜や果樹など接ぎ木技術も持っている方が町内にいる。地元古くから残る木を地元に残しで地域の魅力を高める方向になれば、人材を生かしながら農林業の活性化につながるのでは。
- 町の果樹は十分魅力的。贈答で使っても大変好評だった。
- 地産地消から地産外販へ転換も重要では。
- 生産者、利用者、町の三方よしの考え方が必要。
- 真似でもいい、いい事例は取り込んだらいい。
- 体験型から商売につなげていくきっかけづくりはできないものか。
- 外国の富裕層に販売しては。
- 生きがいで、少量生産されている方と大量生産で外販を行っている方は別の考え方が必要。
- 計画を策定する上で、風評被害予測する視点も必要では。
- 安全安心の発信も必要だが、商品の良さのPR

が不足しているのかもしれない。

- 文教複合福祉施設の利用についてスポットで考えてみては。たとえばキッチンの利用の延長で農産物を販売するなどの連携ができれば、具体的に考えていけるのでは。全体での議論も大切だが、町で決めることは決めて、どうやって使っていくか議論しないと利活用が進まなくなってしまう。
- 町外から町へ入ってくる方が大切。

## 施策の概要：②商工業の振興

- まちなか施設（鈴木重謙屋敷）だけではなく、周辺を滞在させるような一体的な考えが必要では。
- 行政、住民、企業、温泉などの点を、線で結ぶ仕組みづくりが必要と考える。
- 高齢者のスキルを生かした、手作り作品の販売ができれば。(仕組みづくり)
- ネットでの情報発信を有効に活用する。
- 農業、商工業、観光など、官民が連携して行うための施策の記載が必要ではないか。

## 施策の概要：③雇用の創出

- 人手不足と企業誘致は矛盾するのでは。
- 他県から人を呼ぶ視点で、地域おこし協力隊を活用し事業をおこせないか。
- 現場が高齢化している。
- 外国人雇用は、現在は積極的に行っていないが、将来的な人手不足の危機感はある。

## 施策の概要：④観光の振興

- 一つへの支援だけでは、弱い。点ではなく、面として考えなくては。総合計画も施策が点になっている。
- 観光予算の多くが入湯税。入湯税以外の予算を充て、もっと力を入れては。
- まちなか拠点の整備だけでは・・・。自由民権運動だけでは石川町独自とは言えないのでは。
- なんてことのない棚田の風景を喜んでもらえる。風景を残して観光につなげていけたら。
- 道路の整備なども一体的に。
- 震災がないことも強み。自然災害に強い。
- 健康チャレンジは町がいち早く行っている。旅館でもウォーキングなどでつなげて、石川町は健康のイメージをつくっていった。
- 新たな資源として、神社を切り口に観光を考えてみては。
- 町内にも英語ができる人材がいるので観光に活かしていけるのでは。
- 観光協会や案内所を設け、ゲートウェイ機能を持った道の駅を考えては。
- 民間商売の中でやっていくのは限界があるため、町としての方向性を示してほしい。
- 外国人へのネットでの情報発信も検討しては。
- カフェを設置するなど、まちなか駐車場などの拠点へ集客機能を持たせることで人の動きが生まれるのでは。
- 住みやすい環境を作る視点が必要。
- 考えだけ出しても何も実にならない。実効性を。
- 町全体で健康増進の方向性を示し、観光面で自転車や散歩などのコースを作れば相乗効果が生まれるのでは。
- 自分たちでできることと、行政に頼むことを分けて考える。
- 有志連携など、農商工等が連携しプロジェクトに取り組めれば望ましい。

# 保健・福祉・医療へのご意見

## 施策の概要：①地域福祉の推進

- 今は65歳まで働く。高齢化により民生委員の後継者がみつからない。
- 何かあれば連絡が行くシステムがあつたらいい。サロンが充実しているので、継続してほしい。皆さんが気楽に参加できるように。体操などやっているサービスも良い。
- 有償でも遠隔地からの安否確認や通報できたらいい。
- 年金が少ないので、元気な老人の小さな稼ぎができるようになればいい。
- 郡山では高齢者でも結構仕事がある。石川では無いように感じる。生きがいとして大切。
- 認知症に対する認識のあり方や家族の気持ちの持ち方も考えなくては。
- 須賀川ではメールでネットワークが作られている。行方不明の情報共有などに利用でき、費用もあまりかからないのでは。
- お茶などが飲める、元気な高齢者が利用できる癒しの場所があつたら。
- 歩いていける距離で、話し合いができる場所があつたら。
- 自治協議会の福祉部会と町事業との関係性の整理が必要。
- 終活の相談先が必要では。

## 施策の概要：②児童福祉の充実

- 重要度が高い。
- 希望保育所がいっぱいに入所できず、別の保育所へ入所する方もいる状況。保育所の希望に差が出るのは、サービスに差があるからでは。
- 職場が町外で遠い方も多いため預かり時間も検討してほしい。
- 0歳～3歳まで預けると復職できない環境がある。小さい子供の預かりへの対応が必要では。

- 利用者の意見を聞き、わかりやすく迅速にサービスを提供することが大切。
- 土曜日に利用者が少ないのは、預けられる時間設定に課題もあるのでは。
- 保育時間の延長も、利用者のニーズに合っていない可能性がある。(預けにくい)
- 保育士が不足している状況がある。
- 今は幼稚園と保育所でひらがなが当たり前。昔は小学校からひらがなを覚えた記憶だが、いまは早い段階で覚えることからよりばらつきが出ている。親も施設の選択でいろいろ考えるようになっていく。

## 施策の概要：③障がい者福祉の充実

- 人それぞれの問題に対する町民意識の啓発は、障がい者福祉に限らず、総合的に必要では。
- 癌経験者など、多様な経験者と相談する場が必要ではないか。
- 認知症の予防施策の記載が必要では。

## 施策の概要：④高齢者福祉の充実

- シルバー人材の仕事のほとんどが草刈になっている。賞状の筆耕など、人それぞれの特技合った就労パターンづくりが必要。
- 医療と福祉は分けるところが難しい。一定の年齢になった時に、石川町に住み続けるための方法が各自考えられるよう、勉強できる機会が必要では。人生設計ができるよう。65歳以上の方はまだまだ若いと思う。できるだけ住み慣れた地域で住み続けたいが、何でも自分で抱え込んでしまい結果的に住み続けることが出来なくなることもある。老人クラブの活動やシルバー人材の事業内容なども知ることができれば、高齢者が住み続けるための手段としてメリット

を感じてもらえるのでは。

- 老人クラブ等にいきなり入るには抵抗がある。緩衝となる取り組みも効果的では。
- うちの長寿会 65 歳以上が加入できる。学びのイメージよりもゲートボールなど限定的なイメージが浮かぶ。郡山では年間を通じた高齢者の生きがいを持った社会参加を支援するため、高齢者大学（あさかの学園大学）が設けられている。町内でも先生 OB などの人材がいると思うので参考になるのでは。
- 退職後に自分のスキルを活かした活動が生きがいづくりに活かされれば。
- 必ずしも行政主導でなくても良い。それぞれが現在やっている活動を整理して

#### 施策の概要：⑤人権尊重・男女共同参画

- 2、3 歳などの幼少期から相手を尊重する考え方を身につけることが必要では。
- 女性の地位向上の視点だけでなく、家庭内での男性の役割（イクメンなど）を訴えては。

#### 施策の概要：⑥保健・医療

- 診療所の種類が偏っているように感じる。必ずしも大掛かりの救急体制がなくても、夜間の対応や近隣の病院の情報提供など、広域でカバーする考え方が必要。
- 石川町では救急医療はできない。
- 2 次医療圏での受け入れは県が中心となって考えている。
- 季節性感染症予防に対する支援・啓蒙活動が必要では。（ノロ・ロタなど）

#### 施策の概要：⑦保険制度

- 須賀川で糖尿病患者へのプログラムを実施し、効果が見られた。活用できるのでは。本人の意識を変えるきっかけをつくることで、その後の医療費の抑制につなげられる。（予防医療）

## 教育・文化・スポーツへのご意見

### 施策の概要：①生涯学習の充実

#### ②社会教育の充実

- 国予算なども有効的に活用できるよう、生涯学習の実績をきちんと把握し、町として県などに事業報告ができるようにしたほうがよい。
- 公民館条例では、公民館は自治センターを支援するとある。横のつながりが必要。
- 町民アンケートの重要度が低いのは、自治センターで取り組んでいる「レディーススクール」や「寿学級」などが生涯学習であると認識されていないのでは。周知と認知が必要では。
- 物に触れる機会を子供たちに平等に与えたい。
- 実践的、体験的な学習を施策の中で展開してほしい。
- 学校での授業と連携することも重要。
- 住民には公民館への愛着がある。
- 玉川村では中学2年生の夏休みに全員が沖縄に行ける。石川町でもできないか。
- 石川町に歴史を小学校で学習しているが、単発的だと記憶に残らない、年に何度か振り返り、記憶に残るようにしてあげたい。
- 新たな図書館に詳しい石のコーナーなどを設置したい。
- 絵本も日本語、英語バージョンが出ている。図書館に設置してもらえると小さいころから英語に触れられると思うので、親としてはありがたい。
- いろんな活動ができる図書館づくりを展開してほしい。
- 心を豊かにするのに本はとても大切。機能的でみんなが使いやすい施設になるようにしてほしい。
- 各自治センターの図書室がほとんど眠っている。農業支援図書、地域づくり図書など、地域で専門性のある本の設置をすれば、図書館との連携も考えられるのでは。

- 生のものを子供に体験させたい。町内で作っているもの、農商工のあらゆるものに触れる機会があったほうが良い。施策の概要へ記載が必要。

### 施策の概要：③学校教育の充実

- 石川の子供たちはすごく素直、先生方も子供たちのために一生懸命さを感じる。
- 学校や先生だけでなく、親の力を上げていかなければいけないと感じている。親も学べる場があってもいいのでは。
- 地域と学校のつながりの強化をしてほしい。
- 学校にいつでも来られるような環境づくり。
- 地域全体が学校に対して協力する姿勢の醸造が重要。何らかの集まりも必要では。
- 高校生で分数、掛け算ができない人も多い。人間の成長段階でそれぞれにあった教育をすればこのようなことは起きない。
- 施策の方向で記載されている「スポーツ、芸術等に触れる機会を充実」について、施策の概要に記載が必要では。
- 学力だけでなく個人の特性を伸ばす視点もある。成果を上げている私学もあるので教育の視点としてどうか。
- 石川町で体を鍛える場所がない。子供から大人まで利用できるトレーニングルームがあってもよいのでは。福島県民は肥満も多い。
- 子供たちは夏になると鏡石町のプールへ行き、大人も矢吹カーブスへ行っている人が多い。石川町もトレーニングルームやプールもあるのに、勿体ない現象が起きている。
- 石が有名だが、有名だということしか知らない。授業で体験する機会を持ち、小さいうちから町を知れるようにしたほうにしたい。
- 自分の町を語れる子供を育てていきたい。石川町ならではのふるさと教育を充実してほしい。

- 不登校の子供たち、不得意科目への教育のフォローアップを。
- 町内でも、民間で教育に取り組んでいる方もいるので陽の目をあててほしい。
- 全国的な ICT 教育の中で、子供たちがタブレットを配布されて教育クラウドのシステム化が進んでいる。便利なツールは使ったほうがいいと思うが、人とのコミュニケーションも大切。そのバランスは親も悩んでいる。

#### 施策の概要：④文化の振興と歴史資源の継承

- 歴史文化に係る人材育成として、歴史の教科書を作成し検定を行っている自治体もある。
- 地元の歴史や鉱物に触れられる施設を。
- 文化財の積極的な指定をして、観光等多方面に活用を考えては。
- 町の歴史文化への啓発や意識を高めるには町がやらないとなかなか進まない。
- 鉱物など町の資源には素晴らしいものがある。
- 石川町の歴史を語る人が少ないのでは。産業であれ多方面についても影響があると思う。
- 町の歴史や文化を、授業や交流から直接子供たちへ伝えていくことが大切。
- 保育所、幼稚園で紙芝居を使うなど、文教複合施設に限定しない、広い取り組みも必要。
- ふるさと教育の情報など、文化財や歴史などの町の情報が誰でも見られるようにしては。タブレットなどで、子供たちが利用しているものをそのまま大人が見られてもいいのでは。
- わざわざお金をかけるのではなく、あるものを利用して発信の仕方を工夫することもできるのでは。
- インターネットでの検索から得られる情報だけでなく、祭りに参加するなど、子供たちが直接参加する機会を設けるのが良い。そのためには、地域の大人の理解が必要。
- 概ね素案の2つの施策の概要で包括できる。

#### 施策の概要：⑤鉱物の保存・活用

- 教育視点ではこの記載でいいと思うが、鉱物館をまちづくりにどう活かすのであれば、人を呼び込み（観光）、どうやって町に活かしていくかも考えなくては。
- 石川町は駅で降りても石の町をいうイメージが沸かない。石川の石は素晴らしいものがある。石川町に対する石のイメージを持ってもらうよう看板等が必要では。
- 県の鉱物館となってもいいような重要な資源。県を巻き込むことも検討しては。
- 鉱物の満足度は高いが、重要度は低い。鉱物に興味が無かった方に興味を持ってもらえるような取り組みが必要。
- まちづくりには観光視点での考え方が必要では。点と点を結ばないと観光資源にならない。町民サービスのみでなく、利益の視点も必要。
- 変成岩についても施策に記載すべき。この地方の地層の特異性を活かしたジオパークとして整備する記載も必要では。
- 町民がまず認知できる施設となるように。
- 鉱物館で箱物の話ばかりではうまくいかない。早い段階で専門家などと意見を交換し、どのように使っていけるか、広い視野とエリアでの検討が必要では。
- アクアマリンで80万人の来場があっても、イルカのショーをあえてやらずに、生態研究など視点を変え、絶えず工夫した取り組みを行っている。施設の利活用はそれだけ大変なこと。
- 施設オープン前に町外への周知活動の必要。併せて、日本三代鉱物産地であることを周知しては。
- 身近なものに利用されているものと鉱物が繋がることで、子供に興味を持ってもらえるのでは。（ガラス、化粧品など）

## 施策の概要：⑥スポーツの振興

- 石川町はスポーツで有名な町。県内でも同じレベルの自治体は少ない。スポーツを応援する町民意識を高められれば、若者が地元に戻ってくる町になるのでは。
- 子供のスポーツは汚れる、親の人間関係もある。面倒と感じる親も多いと思う。町全体でスポーツに関心が高いイメージが幼少期から浸透すれば。
- 人との関わりを集団の中で感じて行くことが大切。今は関係性が希薄。
- 親と一緒にスポーツをすることも少なくなった。
- 子供に関心がある。ラジオ体操からスタートしてはどうか。(学校・地域・多世代)  
今の中学生はラジオ体操をやらない。
- 防犯面で、遊ばせると危ない、近くに子供が少ない。場所をどうするかの話になる。現状では石川町では遊ばせようと言う会話にもならない。須賀川、郡山まで出向いている。
- 公園は小さな公園が各地にあるよりも、一箇所にまとまった利用しやすい公園にニーズがある。
- 旧石川小学校のアスレチックを早く使いたい。工事中で使えない。
- アスレチックも小さいから子供が飽きてしまう。遊具は鉄棒などシンプルな方が、自分で考えるので良い。
- スポーツの里づくりについて「施策の概要」で追記。町民それぞれが取り組めるように。

# 生活・環境へのご意見

## 施策の概要：①土地利用の推進

- 分散するコミュニティーをどうやって集約するのか。(住民コンセンサス)
- 若年層が住みやすい地域を作ることが大切。町有地を活用した住宅施策を。
- 山橋自治センターを旧南山形小学校へ移設しては。
- 森林の活用が産業の記載と重複している。
- 耕作放棄地の山林化も思い切って認めては(景観美化のため、計画的な植栽など)
- 耕作放棄地の利活用への支援があってもやる若い人がいない。
- 森林をお金に換える方法も必要。

## 施策の概要：②資源循環の推進

- ごみのリサイクル率が低い。
- 河川への生活雑排水が流れている。合併浄化槽の推進を進めていかないと水質は良くなっていかない。

## 施策の概要：③消防・防災対策の充実

- 地域の「防災訓練」「高齢者・子供・障がい者の安否確認」に地域のネットワークを生かしていない。体制づくりについて計画に盛り込んでおくべき。
- 消防団員の説明だけでは災害時に迅速な対応ができない。
- 地域住民が各役割を事前に承知するため防災訓練を実施できないか。
- 全国的に災害への関心が高まっている。
- 河川の堆積土砂の撤去など、計画的な対応が必要
- 安否確認システムを導入してほしい。
- ハードによる防災対策は限界がある。石川町内

の安全な場所を事前に認知しておくなど、ソフト面の対応が必要である。(神社、寺の場所等)

## 施策の概要：④交通安全・防犯対策の充実

- 次の施策の概要を追加してほしい。  
施策の概要：地域防犯意識の強化  
内容：年少者への対策強化、犯罪の広域化  
現状課題：子供の連れ去り、追い掛け回し
- 免許返納について警察署との連携がとれると良い。
- 免許返納になると生活エリアが狭まる不安がある。

## 施策の概要：⑤公共交通網の整備

- タクシー会社と契約し、安価な料金で利用できるよう考えてほしい。
- 山間エリアは移動販売も検討してほしい。
- 既存の事業者サービスも利用できるもの。
- 鉄道が無くなると困る。

## 施策の概要：⑥生活道路の充実

- 舗装、修繕等取り組んでもらっているが、インフラとしてはまだ十分でない。砂利や未舗装道路がある。舗装率100%を目指してほしい。
- 側溝の段差が少ない道路整備を。近隣町村で死亡事故が出ている。
- 案内表示が無い、又は不十分な場所がある。浅川からの農免道路に案内標識がない。
- 子供たちに危険が無いように、歩道の整備が求められている。(通学路)
- サイクリングロードの設置は大規模なプロジェクトとなる。用地賠償も大きな問題となるので課題は多い。

- 自転車と歩行者が併用する考え方もあると思うが、歩行者の危険性が出てくる。自転車は走行音が小さいので、後ろから近付いてきても気づかず接触することもある。
- 何でもできないではなく、知恵を絞りできるものを考えなくては。
- 地域住民もクリーンアップに参加して頑張っている。町も地域も管理が課題になっている。

#### 施策の概要：⑦河川環境整備の推進

- 河川改修を県と連携し、思い切った環境整備を。(中洲の景観が良くない)
- 河川堆積除去を定期的に行う必要がある。
- 石川の桜は素晴らしい、水質改善や河川環境の整備が必要。

#### 施策の概要：⑧住環境の整備

- 空き家対策の支援に、既存の空き家をまちづくりの拠点として整備している自治体がある。サロンなど。支援の方法をセンターや自治協議会などへ知らせながらやればもう少し発展するのでは。地域が活用したい時に、支援や指導ができないか。
- 空き家でも、貸さない、売らないものも多いと思う。利用に向かうためにもその課題をクリアする必要もある。民同士の情報交換や、取り組みに対する支援も考えられるのでは。
- 移住定住のための議論に加え、地域づくりの視点に立った空き家対策が必要では。地域においても地域の空き家を把握し、考え、どう活用するか議論が必要。高齢者のシェアハウスなど、地域ニーズもあるのでは。
- 空き家対策は行政だけでは出来ない。
- 人口は減っている。利用する人はいるのか。若い人は生活が便利で楽なところがいい。活用する視点よりも、住環境として空き家管理が問題となっている。

- 空き家は活用の他、防犯上の管理など施策の横断が必要となってくる。
- 空き家について施策の概要を新たに追加したほうが良い。

#### 施策の概要：⑨上水道の整備

- 安全安心な水の確保と経営基盤をしっかりとやってほしい。
- 他県では県一本で水道行政を行っているところもある。全国的に広域化の流れ。
- 浄水場はイニシャルよりランニング。継続的な維持は予想以上に経費負担になる。

#### 施策の概要：⑩放射能対策の推進

- 元ミスピーチの方の体験で県外での活動のなかで「福島の桃は買わない」と言われた経験があるとこのこと。(現在も風評被害が残る)